

## ( 5 ) 供給処理計画

### 基本的な考え方

博覧会会場を運営していくため、エネルギーの安定供給確保を基本原則として供給処理施設を配置する。また、自然エネルギーや新エネルギーの実験的な導入を目指す。

### 供給処理計画の概要

- 1) 施設の幹線配管をグローバル・ループの下層に設置することで、環境保全・維持管理性向上に寄与する。
- 2) グローバル・コモンや各ゾーン単位でできる限り分散・自立型の供給処理システムとすることで、供給処理の効率化・バックアップ対応及びコストの低減を目指す。
- 3) 期間限定の仮設の会場設備であるため、敷設・撤去による負荷も考慮して必要最低限の設備とし、閉会後も機器の転用やリサイクルなどに配慮した計画とする。

上下水	雨水利用（屋外散水）による上水使用量削減を図る。
電気	ループ化により配線使用を効率化するとともに、安定供給を図る。
ガス	通常の給湯・厨房熱源の他に、燃料電池等の新エネルギー用燃料としても活用する。
空調	フロン・代替フロン非使用の空調熱源器の分散配置により、効率化、節水、コスト低減を図る。
廃棄物	発生抑制策や分別の徹底をおこなった上で、再資源化による廃棄物の有効活用を図る。
情報通信	ループ化により通信の安全確保を図る。
新エネルギー	新エネルギーによる供給施設は展示施設として先端技術紹介や環境教育にも役立つとともに、水素ステーションを配置してエコカー走行などの体験型プレゼンテーションをおこなう。